

※事務局記入欄 No. A-64	【様式2】
---------------------	-------

部門名： カリキュラム・マネジメント実践部門	エントリー名： 沖縄県立向陽高等学校														
活動名： 育みたい資質能力の具現化 短期間で最大限の成果を目指す取組															
解決すべき課題： 教育目標に即し、新しい時代に必要な「生徒に身に付けさせたい資質・能力」の設定 (職員の視点)○これまでの教育活動は、次期学習指導要領で求められている力に対応しているのだろうか。 ○新しい時代に必要な資質・能力は、どのような教育活動によって育むことができるのだろうか。 (生徒の視点)○高校や大学、社会で求められている資質・能力が、漠然としていてわからない。															
目標・方針： 全職員の意見を反映させた「資質・能力」を短期間で効率的に作成する 全職員への事前アンケートの実施及び結果の分析を踏まえた運営委員(各部・各学年・各科主任)による事前の会議と、それを踏まえた職員研修の実施により、育成したい資質・能力の具現化を目指す。															
活動内容： 育成したい資質・能力を具体化・共有し、資質・能力をどう育成するか全職員で考える ①総合探究委員(教頭・事務長・各学年・進路・SSH主任・総合探究係)から、本校が掲げている教育目標を、生徒に身に付けさせたい「8つの資質・能力(素案)」としてまとめた資料が提案される。 ②全職員へ、本校の教育目標や内部環境・外部環境についてのアンケートを実施し、SWOT分析する。 ・本校の内部環境(生徒・学校)の「強み」と「弱み」は何か。 ・本校の外部環境(家庭や地域、教育改革など)の「強み」と「弱み」は何か。 ・本校の教育目標と照らして、新しい時代に求められている生徒の資質・能力とは何か。 ③「①」と「②」を基に、運営委員会議で「7つの資質・能力」作成し提案する。 ④育成したい資質・能力は本校のどの教育活動で育成できるか、職員研修で具体化し共有する。 ⑤職員研修でのグループワークを経て、「7つの資質・能力」の文言を微調整する。															
活動の成果： 短期間で、職員の意見を生かした「7つの資質・能力」を提言することができた 下表の「網掛け・太字」は、10月17日の職員研修を経て、文言を微調整した箇所である。 <table border="1" data-bbox="136 1356 1439 1617"> <tr> <td>ことばの力</td><td>ことばを正しく理解し、適切に使用して表現する</td></tr> <tr> <td>想像力</td><td>TPOに応じて状況をイメージし、的確な行動や発言ができる</td></tr> <tr> <td>論理的判断力</td><td>学んで得たものをまずは受け止め、理解したうえで論理的に判断する</td></tr> <tr> <td>情報活用能力</td><td>学んで得たものを有機的につなげる</td></tr> <tr> <td>自己マネジメント力</td><td>先を見通して、時間・行動・所有物を適切にマネジメント(管理・計画)する</td></tr> <tr> <td>課題発見・解決力</td><td>日頃から自発的・協働的に、具体的な課題を発見し、解決に向けて行動する</td></tr> <tr> <td>創造力</td><td>これまでに培ってきたものを活かして、より良いものを作り出す</td></tr> </table>		ことばの力	ことばを正しく理解し、適切に使用して表現する	想像力	TPOに応じて 状況をイメージし、的確な行動や発言ができる	論理的 判断力	学んで得たものをまずは受け止め、理解したうえで論理的に判断する	情報活用能力	学んで得たものを有機的につなげる	自己マネジメント力	先を見通して、時間・行動・所有物を適切にマネジメント(管理・計画)する	課題発見・解決力	日頃から 自発的・協働的に、具体的な課題を発見し、解決に向けて行動する	創造力	これまでに培ってきたものを活かして、より良いものを 作り出す
ことばの力	ことばを正しく理解し、適切に使用して表現する														
想像力	TPOに応じて 状況をイメージし、的確な行動や発言ができる														
論理的 判断力	学んで得たものをまずは受け止め、理解したうえで論理的に判断する														
情報活用能力	学んで得たものを有機的につなげる														
自己マネジメント力	先を見通して、時間・行動・所有物を適切にマネジメント(管理・計画)する														
課題発見・解決力	日頃から 自発的・協働的に、具体的な課題を発見し、解決に向けて行動する														
創造力	これまでに培ってきたものを活かして、より良いものを 作り出す														
アピールポイント(アイディアや工夫)： 事前の会議と思考の可視化を活用した効率的・効果的な研修 ①テキストマイニングの活用により、職員の思考の可視化と意識の共有を図れた。 ②事前の会議や職員へのアンケート、思考の可視化により、効率的かつ効果的な職員研修を実施できた。 ③育成したい資質・能力を「7つの資質・能力」に具体化できた。 ④職員研修を通して、目指すべき教育活動のベクトルを同じ方向に向けることができた。															

① 9月 総合探究委員会から生徒に身に付けさせたい「8つの資質・能力（素案）」の提案

次期学習指導要領の視点から教育目標を再度捉え直し、「8つの資質・能力（素案）」として提案した。

I 教育目標 1. 教育目標	8つの資質・能力(素案)
国際化・情報化の進展など変化の著しい社会において柔軟に対応し、たくましく主体的に生き、人々から信頼される人材の育成を目指します。この理念を実現するために次の教育目標を設定します。 (1) 創造性に富んだ、豊かな人間性を養い、自ら学ぶ意欲を育て、生徒一人一人の個性の伸長を図ります。 (2) 調和のとれた国際感覚を身につけ、国際社会で積極的に行動する意欲を持った人材を育成します。 (3) 生徒一人一人の進路に応じた特色ある教育を行い、心身を鍛え、能力や個性の伸長を図ります。 (一部抜粋)	課題発見・解決能力 コミュニケーション能力 自己管理・表現能力 論理的思考力 将来設計能力 情報活用能力 創造性・国際性 主体性

② 9月10日～27日 全職員へのアンケート実施

職員研修で話し合う内容について事前に、全職員に意見を求め、意見を集約しておくことで、研修の効率化と職員の研修への意識付けを図った。

③ 10月2日 全職員へのアンケートの結果と分析

テキストマイニングの活用による、思考の可視化・意識の共有

④ 10月3日 管理者と運営委員(各部・各学年・各科主任)による会議(90分)

「8つの資質・能力（素案）」と全職員へのアンケートの結果を基に、新たに「7つの資質・能力」としてまとめ直した。

ことばの力	ことばを正しく理解し、適切に使用して表現する
想像力	TPOに応じて的確に相手に伝わる言葉の選択ができる
判断力	学んで得たものをまずは受け止め、理解したうえで論理的に判断する
情報活用能力	学んで得たものを有機的につなげる
自己マネジメント力	先を見通して、時間・行動・所有物を適切にマネジメントする
課題発見・解決力	自発的・協働的に、具体的な課題を発見し、解決に向けて行動する
創造力	これまでに培ってきたものを活かして、より良いものを産み出す

⑤ 10月17日 グループワークによる職員研修の実践(60分)

- これまでの教育活動で、「7つの資質・能力」のどの力を育成できているのか。
- 「7つの資質・能力」を育成できそうな具体的な教育活動は何か。

の2点に焦点を絞って研修を行うことができた。